

コレンジャーの活動（9/10）



① 隊長より森の地図の作り方の説明です



② 各班にわかれて地図作りだ！



④ 草地で昆虫さがし、カマキリ見つけたよ



③ 森の中で昼食だ



⑤ みんなで大きな紙に地図を写します



⑥ どんぐり紹介



⑦ 地図完成！

台風の影響により「川の生き物調査」が中止となり、急きょテーマが「森の地図づくり」に変更となっていました。「森の地図づくり」、それは約20m×20m 範囲の森にある木の位置図をコレンジャーがつくるというものです。森の中で実際に木と木の距離を測定し、A4 用紙に木のポイントを記録していきました。3班にわかれ、計 32 本の木の位置を分担して記録するのに約3時間かかりました。最後に大きな模造紙に今回のデータを書き写し「森の地図」の完成となりました。「森の地図」を見ると、木が混み合っているところが一目でわかり、「間伐した方がいいよ」という声がコレンジャーから出ました。次回はこの地図を基に間伐体験をする予定です。



レンジャーの日々 「あきる野の森は」

今年は台風の当たり年で、あきる野の森にも台風の雨が7、8、9月とたくさん降りました。台風による大きな被害はなかったのですが、日々の巡視でもたくさんの風倒木に出くわします。簡単に処理できる倒木は、巡視の途中で処理しています。これから秋になればハイカーも増え、その安全を確保できるようにと汗を流している日々です。

大雨が続いた後、増水した秋川本流は、なかなか水位が下がりません。川の水位が下がらなかったため、コレンジャーで予定していた川の調査も、森の調査に変更するなど、私たちもあたふたとしました。



「増水した秋川（戸倉）」



「光明山にて倒木処理」

雨が止み晴天が続いても川の水位がなかなか下がらないことは、森の地面が雨水を吸収して、地下水として時間をかけて秋川に流れ出るためです。専門的には、このような森林は土壌透水性が高く、土壌に水を貯留する能力が高いと言います。このことで地表を浸食する地表水の流れが少なくなります。これは、森が「緑のダム」と言われる理由です。

これらのことは、素晴らしい森が秋川やその支流の周りに育っている証しと言えます。（杉野）

隊長の日々 ～最近話題の変形菌類って何？～

変形菌類とは背着生（柄のない）のキノコのようにキノコではない菌類です。

キノコの仲間は、木材や落ち葉を分解しながら育っています。この変形菌類は、バクテリアを餌にして自分で動きながらバクテリアを探して広がっているのです。

植物の細胞は細胞壁で囲まれているため、自由に動きまわれませんが、変形菌類は、動物の細胞のように細胞膜で囲まれた細胞を持っているので、餌を探しながら動くことができます。そして、お互いが繋がってネットワークを作りながら広がります。

動くと言っても24時間で数cmの動きなので肉眼ではなかなか確認できません。しかし、餌を探しながら動くことから、知能を持った菌類と言われています。



<拡大写真>



写真上
変形菌類
キフシスホコリ
Fuligo septica var. *flava*
写真下
キノコの仲間
アイコウヤクタケ
Pulcherricium caeruleum